

# 地域おこし協力隊

No.1

がゆく

## ・地域おこし協力隊とは

おもに都市部から農山村に生活の拠点を移し、市民の皆さんと一緒に地域を元気にしたいと熱意を持った隊員です。本市では、自然・歴史・文化・ヒト等の地域資源を呼び起こし、交流やにぎわいのあるまちを目指し、今年度4月から採用しました。任期は最長で3年です。

今回採用された4人は、それぞれの分野で活動し、その活動成果を広報常陸大宮やホームページ、SNS等で発信していきます。お楽しみに！



### 【笑顔で挑戦！！】

諸沢地域活性化担当 志賀 瑞穂

大学時代、ラクロス部に所属し、体力には自信がある志賀瑞穂、22歳、新卒です。社会経験は少ないのですが、その分だけ素直な心で皆さんと接することができ、地域に馴染めると思っています。すでに住んでいる諸沢地区を歩けば、声を掛けてもらうだけでなく、自家製野菜のおすそ分けなど、出身の横浜では経験しなかった人の温かみを感じています。

私は地域おこし協力隊として、市民の皆さんと共に諸沢地区の活性化に挑戦します。素直な心と、持ち前の明るさで活動していきますので、これからよろしくお願ひします。

### 【魅力いっぱい常陸大宮】

移住コンシェルジュ 木元 枝里

突然ですが、私、食べることが大好きです。ここへ来て、住民の方から美味しい物をたくさん頂きました。手打ち蕎麦、手作りこんにゃく、自家栽培の野菜等々。その美味しさにも驚いたのですが、それ以上に、生活の基本となる食を自分で作ってすごい！と驚きました。

最近はDIYや家庭菜園など「暮らしを作る」ことに注目が集まっています。今こそ常陸大宮に受け継がれている先人の技術と知恵を地方の魅力として広めるべく、精いっぱい活動していきます。どうぞよろしくお願ひします。



### 【常陸大宮の可能性に光明を見た！】

農家民泊推進担当 間瀬 邦生

実年齢35歳、気持ちは20歳の間瀬邦生（ませくにお）です。

子どもの頃、田んぼでホタルを見た思い出も、田舎の川で溺れて死にかけた思い出も忘れられません。自然は恐ろしく、そして多くを学べる場所です。そんな農家民泊をもっと都会の子どもに広めたい。常陸大宮市に広がる自然は教育基地として最高の土地だと確信して参りました。そんな想いで毎日情熱的に活動していきますので、どうぞよろしくお願ひします。

### 【常陸大宮の伝統文化を伝えていきたい】地域情報調査・発信 岩崎 文香

3月に大学院を修了し、この仕事が初めての社会人経験です。

学生時代の地域の歴史研究や、大学主催の史料調査会への参加で、地域の伝統文化などに関心を持ちました。常陸大宮市には、江戸時代から続く西ノ内紙や明治時代の街並みが残る高部宿など、情報発信の素材となる多くの地域資源があります。それらを発掘して、その魅力を多くの人に発信することで、次の世代に郷土の文化を伝えることに繋がりたいと思います。これからよろしくお願ひします。

